

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院呼吸器センター外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みにになり、ご自身やご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分やご家族の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

2013年5月1日から2015年12月31日の間に、虎の門病院呼吸器センター外科に入院し、手術を受けられた方

【研究課題名】

術前血清 D-dimer 値を用いた深部静脈血栓症の検出および周術期管理の検討

【研究の目的・背景】

目的

呼吸器外科術前血清 D-dimer 値を用いた DVT スクリーニング法の検討とその有用性を明らかにします。

背景

肺塞栓症は血液の流れに乗って運ばれてきた異物（血栓）が肺の血管を塞いでしまう病気であり、最悪の場合命を落とす危険があります。呼吸器外科手術後の肺塞栓症合併頻度は0.58～0.99%と報告されています。呼吸器外科手術後に発生した場合の肺塞栓は他の手術後より重篤になる可能性が高いため手術に際して十分な対策が必要と考えられています。肺塞栓症は足の血管に血栓が出来てしまった深部静脈血栓症(DVT)の5～10%に発症する疾患と報告されており、肺塞栓のリスクとなる術前 DVT の有無の評価は重要とされています。D-dimer は血栓がプラスミンによって分解される際の生成物です。D-ダイマーの血中濃度の上昇は DVT を含めた血栓塞栓症の原因のフィブリン血栓が形成されたことを示すため、活動性肺塞栓/DVT に対し D-dimer はスクリーニングとしての有用性が認められています。しかし呼吸器外科分野で術前 D-dimer 値を用いた DVT スクリーニング法の検討は少ないため、今回術前血清 D-dimer 値を用い静脈血栓症の評価とそれに対する周術期管理について検討するべく、本研究を実施します。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2018年3月22日 ～ 2020年3月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院 呼吸器センター外科 河野匡のもと研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

年齢、性別、採血結果、画像所見、手術所見、病理所見、治療経過など

【研究代表者】

虎の門病院 呼吸器センター外科 河野匡

【虎の門病院における研究責任者】

虎の門病院 呼吸器センター外科 河野匡

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2018年7月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様の不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 呼吸器センター外科 河野匡

電話 03-3588-1111(代表)